

## そよかぜ診療所での研修を終えて

神戸大学医学部附属病院 初期研修医

石田 雄也

2022年9月の1か月間、地域医療研修の学びとして、そよかぜ診療所にて研修をさせて頂きました。

日々の外来では、頸部エコーをはじめ、筋骨格系の関節エコーなどの浅部エコー検査、関節内注射、また外傷にて来院する患者さんの縫合などの創部処置などに携わらせていただきました。自身が進みたい領域に関連する手技が多くはありましたが、初めて経験させていただくことも多く、着実なスキルアップ、知識補填へと繋がったと思います。プライマリの外傷ケアなど、地域を支える診療所ならではの知見も多々ご教授いただくことができました。骨折などの外傷での画像診断は単純X線が主なものではあると思いますが、単純X線では指摘困難な骨折なども、エコーを当ててみて骨折が判然とする症例もあり、今一度エコー検査の有用性、利便性を知る機会となりました。

また、毎日訪問診療にも携わらせていただきました。始めは先生方との同行でしたが、後半からは一人で任せて頂くようになり、主体的に研修することができました。入院・外来での患者さんとは違ったニーズ、生活、環境があり、どれも普段はなかなか学びづらいことが、そよかぜ診療所だからこそ学べたと思います。

地域医療を担う診療所として、単純X線、エコー、消化管内視鏡などでがんの早期発見、およびその意義を間近で学ぶことができました。また、高次医療が必要と判断された場合には速やかに紹介、搬送するという病診連携も何度か拝見させていただき、一般的な初期研修病院では送られてからの診療に携わりますが、そこへ送られるまで、を学ぶことができたのも、今回の地域研修があったからだと思います。

地域医療研修としての1か月でしたが、ここならではの確かな地域医療を学ばせて頂けたと思います。ありがとうございました。